

武士道

Pride of Japan

BUSHIDO

第11号

今の日本はこのままでいいのだろうか



武士道憲章 十一章

- 一、武士道は、天地自然の理法と共に生きる 【自然】
- 一、武士道は、時空を超越する 【超越】
- 一、武士道は、心の清明を希求する 【清明】
- 一、武士道は、志を尊ぶ 【立志】
- 一、武士道は、公正にして信義を守る 【正義】
- 一、武士道は、剛直を以て旨とする 【剛勇】
- 一、武士道は、惻隱の情を心に蔵する 【仁愛】
- 一、武士道は、礼節を重んじ、恥を知る 【廉恥】
- 一、武士道は、忠誠心を堅持する 【忠誠】
- 一、武士道は、親孝行は報恩と心得る 【孝行】
- 一、武士道は、自己陶冶を精励する 【修養】

武士道憲章 11 章には実践することで宇宙の法則と同じ生き方ができる、人の生き方の美しい物語があります。

「武士道は、天地自然の理法と共に生きることを認識し（自然）、時空を超越することで神々を畏怖し先祖の供養をする（超越）、その上で、清明心で生きることを誓い（清明）、志を立て（立志）、公正にして信義を守り（正義）、剛直を以て旨とし（剛勇）、惻隱^{そくいん}の情を心に蔵し（仁愛）、礼節を重んじ恥^{れんち}を知り（廉恥）、忠誠心を堅持し（忠誠）、親孝行は報恩と心得（孝行）た上で、自己陶冶に精励する（修養）こと」

武士道は実践することに意義があります。武士道憲章 11 章の順番どおりに自然、超越、清明、立志、正義、仁愛、忠誠、剛勇、廉恥、修養を実践することで、理解も深まり、どうしても自分中心となってしまう我と欲の強い生き方も正されます。武士道 11 号では第一章天地自然の理法と共に生きる」を解説して参ります。

巻頭言

山谷えり子
Eriko Yamatani



小学校で2018年から、中学校では2019年から道徳の教科化が始まる。

教科化をめぐることは、私が教育再生担当の首相補佐官をしていた頃から議論を重ねてきたことであり、ここまで辿りついたことに安堵している。

それに先立ち、2014年から小中学校で使用されている文科省発行の教材「私たちの道徳」の中学校版では、新渡戸稲造の『信実と誠実なくしては、

礼儀は茶番であり芝居である』などが記載されている。

新渡戸は武士道の中で『義』は、武士の掟の中で、もつとも厳格な徳目である。サムライにとって卑劣なる行動、不正なふるまいほど忌まわしいものはない。』とも記しているが、子供たちが先人や偉人の生き方から多くのことを吸収し、自身の人生を豊かに力強く歩んでいけるよう期待している。

先日、本棚を整理していたところ、父・山谷親平がホテルニュージャパン火災の翌日のラジオ放送で「最近の『男の教育』がなくなってきた。私の親父は立派ではなく、財産を一代で飲みつぶした男ですが、いつも『男は自分のことは最後に考える』といっていました。室戸台風の時、あたりの家が水浸しになったり、崩れたりして、私も家の屋根にいました。小学校六年の時です。その時、親父は隣近所の家ばかり助け、母が『他の家のことばかりやって、自分の家のことを考えないで』と食ってかかっていたが、今になって考えると、親父が身をもって示してくれた教訓でした。」と語っていた。

早いもので、今年の11月28日、亡き父 山谷親平の三十三回忌を迎える。今でも「お父さんのラジオを毎朝聴いていた」、「親平さんの『絶望は愚か者の結論なり』の言葉で、人生をやり直すことができた」など、たくさんのお声をかけていた。中には、加藤隼戦闘隊で父と共に戦った方との出会いや、家族も保存していなかったラジオの

テープをダビングしたものをお送りくださる方もいる。

父の放送で、数回にわたって男の条件について語ったことがあった。

「ひっぱたかれても屁とも思わない強靱さ、ピンチを平気で切り抜けていく男。ピンチになっても怖がらない。やせガマン。これが『男の魅力』」

「『男の人生』・人生は挑戦した目標に向かって継続すること。続けばベテランという味になる。自分をコントロールしながら、一つの目標めがけて努力をしてやめない。」私にとって父は人生の先輩であり、仕事の師であった。幼い頃は父の言葉に励まされ、大人となつてからは議論をすることも多かったが、すべてが私をなす栄養素になっている。

武士道のように「人としていきるための美学」を祖父母から孫へ、父母から子供へと伝え続けてほしいと願っている。

山谷えり子

参議院議員。武士道協会副理事長。聖心女子大卒。サンケイリビング編集長などを経て、平成12年衆議院議員、平成16年参議院議員（全国比例区）。内閣総理大臣補佐官（教育再生担当）、参議院自民党政審会長、国務大臣・国家公安委員会委員長、拉致問題担当、海洋政策・領土問題担当、国土強靱化担当、防災担当）を歴任。

一、 武士道は、 天地自然の理法と共に生きる【自然】

～武士道は、自然と共生していることを弁えて、
総てが自分であると思い大切に接します～



武士道協会副理事長
兼事務局長

本多 百代

人間は宇宙の法則の中で生かされていて、循環と共生を基本としています。それはこの地球上の生き物全てが同じです。空気も水も、食べられるものも、人間が生命を維持するために必要な物は全て無料で最初から用意されているのです。お金がかかっているように見えるのは、その水を家の蛇口をひねれば出るように、スイッチを押せば火がつくように、獲物を自分で取らずに料理がしやすい状態の切り身で買おうとするからです。また、野生では足りない分を養殖するからお金がかかっているのです。本来地球上には全て用意されていたのです。それに対して役割分担をして協力し合うことで、楽に多くの種類のものを手に入れようとして、お金がかかるようにしたのも人間自身なのです。本来宇宙の全てが循環と共生で成り立っているのです。そして、共生する上で大切なことは、総てが自分であると思う気持ちです。「全てが自分」と思うとは、人間の体の手の部分、足の部分、目、耳、鼻、口、胃などそれぞれが役割分担をし、役目も能力もそれぞれ違うものが一つに集まって一人の体となっているところに視点を当てると理解しやすいのではないのでしょうか。しかも、それぞれの臓器がその営みを休まずに続けている間、我々人間の命が続くのです。その臓器や細

胞は我々の肉体でありながら、我々の指示には一切耳を傾けず、ただひたすら決められた役目を果たしています。

それと同じような仕組みで、我々も地球という生命体の中でそれぞれの役割を担って生きています。しかし、人間は地球の叫びなど聞こえず、原水爆や生物化学兵器等を作ってみたり、地球の気持ちなど全く考慮せずに毎日生きています。宇宙の原理は皆同じだということ、つまり、損得を考えずに為すべきことをするということを、ふと我と我が身を振り返ってみた時に、合点がいくのではないのでしょうか。

それならば、せつかく人間に生まれてきているのですから、人間として生きていく意義を考え、生きていくことの意義を考えて、己の役割（生きていく意義、目標、志）をしっかりと自覚すべきでしょう。共生していることを自覚して、周囲と協力し合い己の自分を全うすることが、生きていく基本と言えます。このところに、人間一人一人の魂（精神）の成長のための教材という一面が隠されていると言えます。

しかし、我々人間は文明を發展させたことと引き換えに、本来備わっている本能を失ってきました。例えば、消費期限を確認しなければ食物が腐っているか否かが、分からない人が増えたことが顕著な例ではないでしょうか。今からほんの30〜40年ほど前までは、

「牛乳を熱いお湯の中に垂らした時に固まって玉になれば腐敗している」と祖母たちから教えられ、賞味期限など確認しなくても自分の力で腐敗しているかどうかの判断ができました。しかし、今の牛乳には化合物が入っているせい

か、腐るとヨーグルトの様に固まってしましますから、祖父母の教えは通用しなくなってきたようです。その視点で考えると、古代の人たちは獣が近寄ってきた時など、もつと早くに察知できたから熊や狸、狐、蛇などの野生動物がいる所でも共生しながら生活が出来たのです。今の都会の生活では、ネズミが一匹入ってきたら家中が大騒ぎになります。文明の発展は人間の生活を便利にした反面、人間が自然界で生きていく共生力を削ぎ落と

しました。それに、人間が犬や猫を人間と同じように扱うことで、犬や猫までもが癌になり生活習慣病をも引き起こす結果となりました。つまり、人間だけでなく動物も文明の發展と共に化学調味料など人工の食物を体に取り入れると、生態に大きな変化をもたらしてしまうのです。

人間の持っている力を100%發揮したら、人間はこの肉体の中に入っていられなくなるのかもしれない。つまり、神の領域に入ってしまうのではないかと思うのです。それを目で見て分かるようにしたのが、映画の『ルーシー』です。我々は持っている力の4〜5%（映画『ルーシー』では10%）しか出していないと言われています。残りの95%は目覚めないうまま使わずに死んでいくのですから、人間が如何に大きな力を持っているかがわかります。だからでしょうか、人間は「人」になるには「間」があるから「人間」というのだそうです。人間が神の分け御霊といわれる所以のようです。

天皇陛下とも親交があり、日本の皇室やスペイン王室、バングラデシユからも表彰された故奈良毅先生が「我々人間は自分が神様であった時のことを思い出しなさい。そして、生きていくことを楽しみ、仕事は遊びであり楽しまなけ

れば生きていく意味がないですよ」と生前に教えて下さいました。もつともつと自然と融合し、自然を畏怖し、持っている本能（人間本来の能力）を引き出す努力をしたら、我々はもつと精神的に成長するように思えてならないのです。そのきっかけが武士道であり、日本発であると言つて間違いないでしょう。

だからこそ、天地自然の理法に則り、自然と共に生きることを始めなければならぬから第一章になりました。

本多 百代 【プロフィール】

武士道協会常務理事兼事務局長、株式会社八光（旧ラインエイジ）取締役会長
経歴：中日新聞名古屋本社中日研修センターで8年間、中日新聞東京本社企画開発室で4年間、組織開発（OD）プロデューサー・研修講師として勤務し、組織立ち上げ、営業（テレアポ・訪問）教育と人材育成プログラムの開発を担う。2004年人材育成のラインエイジを創設し代表取締役人任、2014年ラインエイジを株式会社八光と社名変更して取締役会長に就任。大学特別講師（中央大学、大妻女子大学、大東文化大学etc）、教育委員会、青年商工会、商工会議所青年部、JU青年部会、神奈川県農協、ロータリークラブ、中小企業同友会、倫理法人会、異業種交流会、全会津文化祭会津エンジン、中日新聞社、朝日新聞社、民間企業専属研修講師、武士道協会人間力向上セミナー講師、武士道学校講師、さむらい塾（子供教室）講師、他多数。
著書：「これで完璧人材育成白書」酒寄ユリヤ著、ペンネーム、

三者談話

（そのまゝ掲載）

（10号より続く）

奈良

私は「果て」という「最高」というのは

ないと最初から言いますから、何も急ぐ

必要もないし、他人と比べる必要もない

し。とにかく早く行きたがる人には「ど

うぞ、私はゆっくり行きます」（笑）と

いうふうにして、瞬間、瞬間、自分は永

遠の楽しむ道を歩んでいるということだ

けを感じて生きていけばいいわけです

ね。何がおきても、それは楽しみの為

になるといふ。まあ世の中には汚い物とか

見て辛い物とか悲しい事とかありますよ

ね。だから、その時は感情を持っていま

すから、それで楽しいと思う人はいない

と思いますよ。だけど、どうしたらこの

人を楽しくさせるかということを考えて

て、その為に一生懸命何かやりだす。そ

れがまた楽しみになるわけね。そして、

相手が苦しい境地から脱してね、その人

も楽しいと思えばもつと楽しみになるわ

けです。しかもそれはどこ迄やればいい

ということではなく、永遠にやり続ける

わけです。体はいつか無くなりますから、

それで終わりというわけではないですよ



ね。今度は魂のまま同じことをあの世で
やっていくわけですから。永遠のね、永
遠の。

立山

そうするとよう分かりますね。他人の楽

しみを我が楽しみと為すとかです。

奈良

結局は自分の一部なんです。相手も。

だから自分の顔だけ綺麗にしてね、手足

は汚くていいというもんじゃありません

。（笑）やはり全部綺麗にした方が楽

しいわけですから。

本多

その嫉妬心が出てしまったものを抑える

というのは、本人が自分で気づかないと

ダメなんです。やはり。周りから何か

で諭されるとか気づかされるとか、きつ

かけがあるとそれが旨く嫉妬しなくなる

というか。

奈良

まあ、きつかけは、やっぱり本人が辛い

とか悲しいかと思つた時に、何とかして

それを逃れたいと考え始めるんですよ

ね。どうしたらいつも楽しく居られるか

とね。最初は自分だけね楽しければいい

というところから始まるわけですよ、

たいていの人は。しかしそうやってみた

けれども、結局は自分の家族とか知り合

いとかがなかなか楽しくなれない。結局

本人もそれによって悲しくなったり寂し

くなったりしていくわけでしょう。だか

ら、自分だけでなく総ての人が全部楽し

くならないと楽しくなれないということ

を、段々分かっていくわけね。その時、

一番大事なことはね、非常に大事で難し

いことは何だというと、正直ということ

なんです。嘘を言わないということな

んです。

ああ

これはなかなか難しい。やっぱり自分を

どこか良く見せたい。

立山

かばうわけなんです

奈良

そうそう（笑）。で、自分が、ああ、こ

れ知られると恥ずかしいというものがあ

るとするわけね、それは出したくないん

ですよ。

立山

そうですね。今もいっぱい持ってます

のね、私も（笑）

奈良

それが非常に難しい。それを生涯かけて

ね正直になろうとした人、まあそれは一

人あの、ガンジーさんですね。うん。

立山

ああ、はいはい

奈良 彼は完璧じゃなかったけど、常に正直であらうとした人ね。

立山 はあ

奈良 うん、だから自分の過ちとか恥ずかしい事全部自伝に書き出していますね

立山 はあ

奈良 まあ、これは通の人はできませんよね。

立山 見栄から何からあるもんですからね

奈良 ハハハ(笑)

立山 どうしても綺麗事は言いますが皆自己愛ですものね。

奈良 そうですそうです

立山 私もそうですし。

奈良 それで生涯貫いたのですが、それでも完璧じゃなかったから最後は殺されちゃいますよね

立山 はあ

本多 完璧だったら殺されなかったんですか？

奈良 殺されなかった、完璧ならね

立山 ううーん

本多 じゃあ、先生方便はどうなるんですか？

奈良 方便？

本多 はい

奈良 それをね、他人のためにね、喜ばすために使うならば、それはそれなりに意味があるでしょう。

本多 はい

奈良

本当の事を言うことでね、それは自分に對しては正直であるべきですよ、相手に対してこれをやったら相手が悲しむか苦しむかって言った場合ね、やっぱり苦しまない言い方で伝えた方が良いわけよね。その時は方便と言うことになっちゃうと思うんですよ、本当の事を言っていないわけですから。はい。

立山

昔からです、嘘も方便という言葉は出てましたよね。

奈良

そうそう、悪い事として取られることもありますけれど、それはやっぱりあの自分を良くするための方便はやっぱり困りますよ

立山

ええええ

奈良

しかしね、やっぱり相手を喜ばしたり、安心させるためにはやっぱりそこには愛が入っていますからね、許されるんじゃないですか？嘘を言っているわけじゃないんですよ。嘘じゃなくて。

立山

ええええ そういうところを嘘も方便と

言いますから。(笑)

奈良 はいはい

立山 なんかこう、怨み妬み嫉みとかですね。(次号に続く)

奈良 毅 「プロフィール」

2014年1月20日没。1932年 秋田市生まれ。東京外国語大学名誉教授。清泉女子大学教授歴任。

秋田大学芸術部国語国文学科(学芸士)、東京大学大学院人文学科研究科言語学科(文学修士)、インド共和国カルカッタ大学院人文学研究科比較言語学科(哲学博士)

1964年より30年間、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究勤務、現在同大学名誉教授。その間、国内外の7大学で教授、非常勤講師歴任。

1996年より8年間、清泉女子大学勤務(同大学言語文化専攻主任教授、人文学研究所所長、地球市民学系主任教授、(財)日印協会顧問、(財)オイスカ顧問団長、日本パンダラデンユ協会顧問、(財)ラポ国際交流センター評議員、パンダラアカデミー終身会員、日本語学会維持会員、日本南アジア学会会員
生前の活動：祈りによる広島平和市民運動代表、世界平和と少数民族の言語文化及び球環境保全のための運動

立山 雄二 「プロフィール」

武士道協会常務理事兼九州地区本部長、五光設計株式会社代表取締役

経歴：熊本県玉名市出身。県立玉名高校・福岡大学工学部卒業。高校時代に柔道2段、大学時代に福大小少林寺法部で活躍。

1983年土木設計コンサルタント会社である五光設計株式会社を創設、代表取締役に就任、今日に至る。

ボランティア実践隊の発足



隊長
山田 義富氏
武士道協会常務理事
兼 関西地区本部長



副隊長
永田 壮士氏
武士道協会理事
兼 九州地区本部長



事務局長(弁護士)
雪下 申明氏
武士道協会常務理事
兼 本部事務局次長

武士道協会が発足して9年の間に、東日

本大地震、御嶽山噴火、熊本地震、その他各地での台風などによる水害、災害などが後を絶たず、火と水による天災に多くの命が亡くなり、それに伴い多くの悲しみの涙が流れました。今年の熊本地震が発生した後、熊本でボランティアをしようという声、常務理事の山田義富氏、山田氏友人の谷山さんからあがりました。それを受けて、副理事長の立山雄二氏、同副理事長の本多百代氏、が実行部隊として熊本県の益城町にあるボランティアセンターに行きました。そこで、2泊3日の行程で、益城町でのボランティア活動、そして、熊本で被災した武士道協会会員への陣中見舞をしました。

いました。

ボランティアセンターでは、先ず書類で自己申告をしてから保険に加入します。それから、ボランティアをする上で必要なことの説明を受けます。それは、約束の時間が来たら非情と思っても引き上げること、必ずセンターに報告することなど、差し入れについてまで事細かに説明を受け、現場で実践することが求められます。それは、ボランティアはしてあげたいことをするのはなく、受け手にとって良いことを、規則の中で実践することだからです。それから初めて需要(助けを求めてきている被災をされた方)に対する、供給(ボランティア志願者)のマッチングが始まりました。私達4人が派遣された先は、8名の要員を必要とする、崩れた塀の除去を依頼してきた民家でした。日本全国から集まって来たボランティア志願者の老若男女の中から我々4人を含めた8人が選出されて一つの班を作りました。リーダーには経験者の山田義富氏が任命されました。8人はボランティアセンターから貸し出された1台の軽トラックにスコップ、大きなハンマー、バケツ、土囊を入れる袋・・・など積み込み、参加者の自家用車に分乗相乗りし、手弁当で現場へ向かいました。被災現場では待ち

※入隊希望の方

協会サイトから申込書をダウンロードしてメール (info@bushido.or.jp) に添付して送信してください。PCの環境が整っていらっしゃらない方は、本部事務局へ電話 (03-5325-2660) を頂けますよう、お願い申し上げます。入隊資格は、自主管理ができて団体行動ができる人。

に待ったボランティアの到着だったので。突然襲った大地震は、平素の生活で築いてきたものを奪い去り、平和に団らんを楽しんでいた家は廃墟と化しました。亡くなった方も残された方も、さぞ苦しかったこととお察し申し上げます。

その様な中、手際よくボランティアメンバーに指示を出す山田氏。本業が建築関係だけあつて射的を射た指示を出してました。土木設計が本業の立山氏、山田氏と同業の谷山氏、皆動きが機敏で、とても山田氏が肋骨を骨折していること、立山氏の心臓が半分しか動いていないことなど微塵も感じさせない動きでした。また、東京からの仕事帰りで何の準備もできないまま急ぎ現地入りした本多副理事長は初めの内、「この様な格好では、かえって現地の被災された人達に申し訳ない」とパンプス姿でかなり引き気味でした。山田常務理事が「カウンセリングなど相談のボランティアもありますよ」と勧めるのですが浮かない顔で流されるままついていくのが精一杯といった状態でした。しかし、現場の困っている人達の姿を見て、山田リーダーの指示で作業が始まった時には無心で瓦礫をトラックに投げ込む周囲に馴染んだ姿だけでした。

今回の経験で、ボランティアをしたい気

持ちがあつても体制が整っていないなければ何もできない、また、最初にボランティアに参加するのは勇気がいるということ、参加してみたら清々しい気持ちになり自分に自信を付けるきっかけになる、ということを実感したので。そこで、山田常務理事を隊長に、武士道協会でもボランティア実践隊を立ち上げるようになりました。気持ち引き気味でも誰かを助けたい気持ちがあり、社会貢献したいと思うならごなたでも参加できます。自分のできることを自己申告してください。自主管理ができて団体行動が無難にできることが参加資格です。「武士道ボランティア実践隊」のロゴマークも作成中です。P9とP11に載っているもの8点が、現在候補に挙がっているものです。自分を鍛えるためにも、武士道精神を高めるためにも、奮ってご連絡ください。

連絡先は武士道協会本部事務局

03-5325-2660 (電話) 又は

info@bushido.or.jpです。

メールには、「ボランティア実践隊入隊希望」と記載した後に、「住所」「氏名」「年齢」「携帯電話番号」「自宅電話番号」「メールアドレス」を記入してお送り下さい。追ってご連絡致します。

Bushido

BUSHIDO



武士道



熊本地震に思う



関西地区本部

山田 義富

まずはじめに、この度の地震により不幸にもお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます、一日も早く元の生活を取り戻せるようお願いいたします。いつも大きな災害で思うのは、明日は我が身で決して他人事ではない、何かお役に立てればと思うと行動せざるにいられなくなり、今回も短期ですが立山、本多両副理事長、私の友人の谷山さんの四人で熊本の益城町にボ

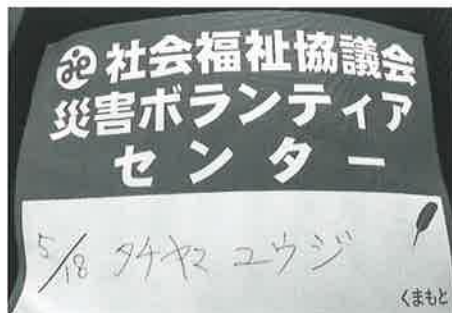


ランティア参加させていただいてきました。

今回現地でチームになった仲間でお若い方にお伺いしたんですが、県内で自らも被災しながら、大きな被害はなかった、報道で隣町で大変な被害が出ているのを見て居てもたつてもいられず、どうして良いのか解らないまま取り敢えずネットでボランティア情報を調べ勇気を出して活動に参加してみました。それもお若い女性が多かった、男性に交じり、男性に交じり力仕事も嫌な顔一つせず一生懸命汗を流しておられました。そしてよい経験をした、一歩踏み出す勇気を出せた事で今後もっと色々出来る気がすると晴れ晴れしたお顔で話してくださいました。

「案ずるより産むがやすし！」

と教えられた気がし、まさに武士道憲章の自己陶冶を無意識のうちに実践されているんですよ。この方はこの経験で今後人生が変わるだろうなと感じました。私もこの方の様に若い時から崇高な精神をもつて行動に移す事が出来ていたらもつと違った自分がいたかも、と省みずには居られません。何かやりたい、との思いは



あるのに何をどうしたら良いかが解らずに最初の一歩が踏み出せずに行動できない事って日常よくありますよね。本当に勿体ない話ですね。

今回の経験を通じ、両副理事長とお話の中で、折角のNPO法人、こんな有事に会員間で力を合わせて何らかの行動ができる組織作りが必要不可欠ではないか、という構想が浮き上がってきました。本当にそんな組織が出来るならば、及ばずながら私もその一隅に加えていただけたら、また違う角度で色んなことを学ばせて戴けるんでしょね。最後に、東日本、熊本ともに一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます。

山田 義富 プロフィール

1961年 大阪府生まれ
小中学高校時代に大阪、和歌山、京都と
転居し現在は和歌山で定住化
1995年 設計施工 三協工務店設立
2006年 不動産業 ㈱紀南開発代表就任
建築、設計、宅地分譲に携わり現在に至る

「武士道」を「武士道」で 終わらせないために



首都圏地区本部

今元 博之

この度の熊本・九州の震災により被災されました皆様へ、心よりお見舞いを申し上げます。大切な家族、かけがいのない友人、近所の仲間……。そして、先祖から受け継いできた土地や慣れ親しんだ家屋……。少しでも早く傷が癒えますこと、そして一刻も早のご復旧を深くお祈り致します。

「武士道」を「武士道」で 終わらせないために

今最も大切なものは何だろうか？ 私たちの先祖が育んでくれた深く逞しい精神を、生暖かく虚栄に満ちた夕風に剥ぎ取られつつあるのではないだろうか？ 日本人が心に抱く美しい生き方は、時代と共に色褪せ過ぎ

てはいないだろうか？ 今我々の中にある蛾の羽粉のようにまとわりついてしまった自分本位の一世代のみの損得感情。「奉仕」や「献身」という言葉は風化し、「忠義」などもはや Google で検索しなくてはならない。19世紀末ウィーンから一世を風靡した夭折の画家エゴン・シーレ。ゴッホが死んだ年に生まれ、絵筆一本で己の極限まで到達した。

30年前に出会った言葉。

「あらゆる者は、生きながらに死んでいる」

常に物事は過去となる。今を熱く戦わなくては未来は来ない。今が不本意なら次はない。

この「今」が輝きでなくてはと、まだ見ぬ未来の子孫のために己を磨いた。

最近噛み締める言葉。

「武士道とは、死ぬことと見つけたり」

常に、自分を見つめ、いざというときのために心身ともに高め、守るべき者や求める生き方のために「生」を尽くす。そこには常に敬うべき主君や尊ぶべき家系が存在し、そのために時々一刻を大切に平常心で歩む。「生」に身を委ねるのではなく、「死」に向かつて、強く生きる。私は、武士道協会にて今後、僅かでもいい、天地自然や他を敬えられるような活動を通じ、少しでもいい、熱く伝播する波動を諸先輩方々と共に生み続けていきたいと思えます。



武士道
BUSHIDO

武士道

今元 博之 「プロフィール」

1967年大阪生まれ。
関西学院大学社会学部卒業。
証券会社、画商などを経て、現在建築リフォーム会社勤務。
20年間の経歴の中で最も大切にしている言葉は「住まいは、社会の中心」。
マンションや戸建て住宅の内外装の改修工事の中から学んだこと、人にとって大切なものはいつも同じです。どんなクールな建物でも必ず温かみがなくてはならない、そしてそこには人と人との対話と和がなくてはならない。

サービスマンの武士道



九州地区本部

中山 健太

今日、社会には営業職、技術職、事務職など様々な職種が存在しているが、それらに共通して求められているものがある。

それは、顧客の対象が法人であるか個人であるかに関わらず、顧客にとってのメリットを提案したり提供したりする大義でのサービス性ではないだろうか。

個々においては直接的、または間接的にでも、消費者や利用者の満足を意識して自らの仕事に励むことが大切であり、それらを通じて利他や奉仕の心を養うことが出来るのではないだろうか。

私自身、5年間ほど結婚式場の仕事に従事していた経験があり、式に参列するゲストをおもてなしする部門に所属していた。一生に一度の結婚式に携わる中で、新郎新婦やゲストにとっての最良のおもてなしとは何かを追究し、日々サービスの向上を目指していた。

東京オリンピック招致のスピーチの際に「お

もてなし」という日本語のキーワードが世間の話題を集めた。本稿では、「武士道精神」心からのおもてなし、相手の立場に立つ思いやり」を題材とし、結婚式場での経験から得た気付きを紹介させていただきたい。

サービスとは、もつとも人間らしい営為（いとなみ）である。なぜなら、それは、人のために尽くし、社会へ価値を生み出し、それを自らの喜びとし、また成長の礎とすることだからである。

この言葉は当時の上司から我々、現場の社員に向けて紹介されたものだ。私は自分のロツカ―にこの言葉のメモを貼った。ふと読むと初心に還らされる一文で、辛いときには心の支えとなり、また様々な経験を自らの成長の糧として捉えることが出来る様になった。

昨今の結婚式の組数は少子化や不景気の影響を受け年々減少しており、マーケットは縮小傾向にある。当然、結婚式場としても市場での生き残りを懸け、様々な工夫を凝らし、競合他社との差別化を図る必要があった。

そこで私たちは社長の号令で他にない特別なおもてなしを試みた。

それは「魔法のおもてなし」というもので、マジックやバルーンアート、ダンスを習得し、ゲストに楽しんでいただくために披露するというものだった。我々は月に2回のレッスンに真剣に取り組み、スタッフ同士でも切磋琢磨しスキルアップに努めた。

結婚式に参列するゲストにとって、マジックやバルーンアート、ダンスのおもてなしはとても新鮮なものだったようだ。楽しませるために

「こんなことまでしてくれる式場」ということで、スタッフの努力は新たな価値を生み出し、企業価値を高めた。

人が喜ぶ顔を見るのは嬉しい、ということを変更して体感した私たちは、100名ほど在籍するアルバイトのサービススタッフへの教育にあたって、このことを伝え続けた。

初めは、人前に入る恥ずかしさや、受け入れられるのかという不安からか、新たなおもてなしはなかなか浸透しなかったのだが、まずは社員である我々が失敗を恐れずに率先垂範し、実践し続けた結果、アルバイトのスタッフが自発的に、マジックやバルーンアートを教えて欲しい、ダンスを練習したい、と言うほどまでになった。

喜んで喜ばせる、喜ばせて喜ぶ。言葉の通りの意味だが、要は相手の喜びを自らの喜びへと昇華させ、自らの原動力とする、というおもてなしのサイクルが我々の式場のスタッフの中で風土として根付いたことが、大きな収穫であったと思う。

これらの経験を活かし、私自身、サービスの場に限らず、すべてのコミュニケーションにおいて相手の立場に立ち、相手を思いやる真心を大切に、自己修練を積み、武士道への理解を深めていきたいと思う。

中山 健太 プロフィール

1987年1月11日男三人兄弟の末っ子として生まれる。福岡県出身。山羊座A型。福岡大学経済学部産業経済学科卒業。営業畑で大学卒業後今日まで第一線で活躍。

今の日本(人)は

このまままで

いいのだろうか？



—サイゴンより特別寄稿—

白井 尋

今の日本(人)はこのままでいいのだろうか？

会報の表紙の言葉はこの十数年ベトナムで私が自問自答してきたテーマの一つです。

今年でベトナム・サイゴンに住み19年、恵まれない若者のためのトレーニングレストラン(ベトナム家庭料理店)を運営して15年になります。これまでこの地で、沢山のベトナムの人、世界中から訪れる外国人、そして日本人に出会ってきました。

当たり前のことながら日々実感するのは、人は皆違う—それは優越ではなく差異・特性の違い—だから素晴らしいし、(国際)社会で役割分担が出来るという事です。ならば、自分は一人間として、一日本人としてどうあるべきなのか、ずっと先達から学び、考え、自分なりに実践するよう努力してきました。

今の日本人はどうなのだろうか。海外から自分の目に映る日本人に違和感を覚えてしまう事が多々あります。今の日本人の主語(自覚・主体)はほとんどが仕事人として、消費者として、お客様として、私だけの世界のそれに一杯一杯のように見え、更にベトナム(アジア)にいる日本人の中には現地の人々をどこか下に見、又見限り、日本ではしないような無礼をする人も多く見聞きます。ビジネスニュースや生活情報、流行や現代常識、仕事の成果も必要で大切ですが、そればかりであるともっと大切な本質的な事に盲目になってしまいます。仕事人(経営者、上司)、お客様で在る前に人間であり、(海外では特に)日本人であるという真実に気が付きにくいのだと思います。

考えてみれば、そこを埋めるしかるべき教育や学びの機会は特に戦後の日本にはほとんど存在せず、それでは武士道のような日本人が持つたくさんの先人の普遍的な教え(宝)には出逢えないのです。それでは、日本人としての良知・特性・役割を自覚し発揮するのは難しいでしょう。

アジアにおいて日本人は概して尊敬されていると実感しますが、本来の日本人の力はまだまだそんな程度ではないと私は一日本人として思っています。『汝自身を知れ』自分—日本人とは何かを知る事で改めるべき点・目指すべき道標が明

らかなれば、やる気も生まれ、自身の力・特性を最大限に生かす事に繋がると思っています。

私は2年程前にサイゴン在住の日本の若者向けに、先人から生き方・人生を共に学び合う私塾を立ち上げました。色々な方々の教えの多くは武士道の根幹でもある『仁義礼智信』知行合一に繋がります。小さい規模ではありますが、先人の言葉・精神が若者の心に響き、良い変化を促している事を実感しています。海外生活が長いからこそ、日本人だから見えるもの・判るもの・伝えられるもの・創り出せるものがある。と強く信じています。そして、その他国民との差異は、そのまま国際社会においての日本人の役割であり、価値、使命であると思います。これからも武士道や先人の教えから日々学び、実践・自反慎独を積み重ねつつ、微力ながらも少しでも自分の周りの人達・社会に良い影響を与えられるへ人の悪を成さず、人の美を成す人間に近づけるよう努力を続けていく所存です。

白井 尋 「プロフィール」

1973年栃木・那須生まれ
大学卒業後1年間の会社員生活を経て1997年ベトナム・サイゴンに語学留学。2001年に社会的に恵まれない若者のトレーニングベトナム料理レストランHuong Laiを開業。多くの孤児、元ストリートチルドレン、貧困家庭出身の若者が巣立ち、サイゴンの有名レストランやホテルで活躍している。
2014年よりサイゴン在住の日本人の若者向けに先達から生き方を学ぶ私塾、サイゴン日新塾を主宰。

「和装」



礼法着装講師

本多 由佳



和装、着物は我が国の歴史と共に育ってきた世界に誇れる伝統文化です。平素の生活の中で私たちが実践活用し、それを後姿で後世に伝えていくからこそ伝統文化と言えるのです。和装は、ケ（日常）からハレ（非日常）まで、生活の中で今世まで受け継がれてきました。しかし、

大正以降皇族が正装を洋装とされたことから洋装が生活の主流となり、現在では日常着はもとより冠婚葬祭でも洋装が正装となったのです。今では日本人の多くの方々にとって、和装は特別な日に専門家に着付けをして頂いて初めて着られるものとなってしまいました。伝統はその時代に相応しく形を変え、親しまれ、人々の暮らしに取り入れられ、伝えられて来たからこそ今があるのです。誰も実践せず文献の中にだけ存在が記されたものは過去の歴史であり、伝統とは呼べません。

私達の先祖が生活の中で当たり前に着ていた和装には、洋装では想像もできない位様々な仕来たりが存在します。それらは日常着が和装だった頃は、親や周囲の大人達の立居振舞を見て自ずと身に付いた事でしょう。しかし現在ではわざわざ習いに行かなければ知る機会すらありません。

あるサイトに次のような投稿がありました。「7月に友人の結婚式に参列します。その時に成人式で着た振袖を着たいと思っっているのですが、どうでしょうか？」

これに対してたくさんの方の意見が寄せられました。その意見の60%が「なんて非常識なことを！」という否定的な内容でした。なぜこの

質問が非なのです。つまり、和装は四季をととても大切にしているからなのです。洋装では夏物、冬物、四十物（あいのもの）に分かれています。和装ではもつと細かくなり、10月～5月までは裏地が付いている裕（あわせ）です。日を追うごとに暑くなる6月と涼しくなる9月は裏地のない単（ひとえ）です。盛夏の7月と8月は裏地がなくより透け感のある涼しげな薄物です。これは大きく分類したもので、生地や作りによって、また柄や小物によって、更に細かく一目瞭然に季節を表現しながら装います。

よって、本来真冬に着る裕の振袖を、盛夏に着るとするのは確かに非常識となってしまう。実際には盛夏に裕の着物は汗まみれになってしまうと着用していることはできません。それなのに、40%の方が真夏のお振袖着用に賛同されていたのです。それは、結婚式でご親族の方が和装をお召しになることはかなり多いのですが、その多くが式場でのレンタルになってきているのが現状です。今や薄物の留袖などは、レンタルで探すことはかなりの努力が必要です。それは、

需要がほとんどありませんので作り自体が少なく、高価になってしまいうからレンタルとして成り立たないからです。それ故、多くの式場で一年を通して袷になつてしまふ事が非常に多いのです。

着物は季節をととても大切にすると前述しましたが、それ以上に礼節や格を大切にします。結婚式では参列者よりもご親族の方が上位となりますので、ご親族の方が袷をお召しになっていらっしゃる場合、季節に反しても参列者が薄物を着用してしまつては、ご親族の方に恥をかかせてしまうことになるのです。また、外でのお式でなければ空調が行き届いておりますので、現地で着物に着替えるのであれば、お式が披露宴の間だけであるならば、袷でも問題ないのではないかと考えるからです。何よりも、この機会を逃してはせつかくの振袖に袖を通す機会を失つてしまうからです。振袖は若い女性の最上位の礼装ですが、若い世代の独身女性が着用するものと決まっていることから、既婚ですと例え10代の若さであっても袖を通す事はできないのです。また、最近では若い方の浴衣ブームが

見受けられ、お祭りや花火大会などでは以前より華やかな姿を目にする機会が増えました。本来浴衣は入浴の際に着たのが由来であり、寝間着に値するものでした。しかし、今では生地や柄も工夫され、外出着としても十分通用する様に作られています。欧州の観光客の方の中には、お土産に浴衣を購入し、帰国後はバスローブ代わりに使う方が多いそうです。それは単純に着方が分からないからなのですが、反つてその方が本来の使われ方に添っているというのはなんと不思議な話です。

今や京都などの観光地に行くと、普段から着物をお召しになられている方の方が少なく、街行く着物や浴衣姿の方は「なんちゃって舞妓さん」や「レンタルショップを利用した海外の方達」です。しかし、海外での着物の評価が非常に高いことは、とても有難く、誇らしいことだからこそ、なおのこと私達日本人が和装の知識をほとんど持たず、着物に触れることすらない現状は憂慮すべきことと言えるのです。

今生きている私たちが後世に伝えなければ益々形式だけのものになり、果ては廃れてしまふという事も充分あり得るのです。その為には少しでも多くの方が、少しでも多く和装に触れ、その文化を知る必要があります。その為にも温

故知新、古きものを守るだけではなく、今の時代に寄り添う形の確立もとても大切です。もちろん、それを理由に格も礼節も四季も関係ないというわけには参りません。本来の在り方を知った上で臨機応変に対応するのと、知らずに行うのとでは全く違うからです。

和装で大切なことは礼節と思いやりです。仕来たりを形式で捉えれば堅苦しいと感じますが、思いやりを持って扱えば、その全てに意味があることに気付きます。失われつつある日本人の美点「思いやりの心」を呼び覚まし、誇るべき伝統文化を美しい在り様で後世に伝える事が重要と言えましょう。

本多 由佳 【プロフィール】

着装礼法講師。学習院で基礎教育を受け、京都造形芸術大学で芸術学を学び、イタリアに2年間語学学習を兼ねて遊学。イタリアの教会で3・11被災児童に除染を施すための寄付金を集めるボランティアに弟と参加し、折紙の製作と販売、折り方や着付けを教えたことから、日本の伝統文化が世界で求められていることを実感し、帰国して和の文化の学びを深めている。祖父が皇室華典長・勅使、曾祖父が侍従だったことから幼い頃より神道行事や礼法を自然と身に着ける環境にあった。

活動案内 (サイト掲載)

役員忘年会を除き、非会員、初めての参加、お一人の参加、老若男女、どなたでも参加可能です。
電話或いはメールにて、各担当者にお申し込みください、当日9時迄受付です。

首都圏地区本部 (東京)

毎月1回日曜日 午前9時30分～12時で、今年から会員による活学セミナーを開催しています。その内、年間3～4回 武士道憲章の勉強が入ります。いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

お問合せ：青山 誠理事兼首都圏地区本部長 (電話 090-4529-2549)
メール info@bushido.or.jp

【東京での全国大会】

毎年12月に総会、全国忘年会を開催します。

お問合せ：武士道協会本部 (電話03-5325-2660 或いは、メール info@bushido.or.jp)

関西地区本部 (京都)

毎月1回日曜日の午前10時30分～、西陣の東山堂本店2階にてセミナーを開催しています。内容は、武士道憲章で、毎月1章ずつ勉強しています。講義30分、意見交換45分、講評15分、です。いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

お問合せ：京都府にお住まいの方は、廣森日出夫京都府支部長 (090-1905-1152)
それ以外の地区の方は、山田義富常務理事兼関西地区本部長 (090-8885-2007)
メール info@bushido.or.jp

【京都での全国大会】

毎年1月に日吉大社初詣と新年会です。日吉大社の真淵宮司様は武士道協会の理事です。一年の始まりを日吉大社参拝で始めませんか？

お問合せ：武士道協会本部 (電話03-5325-2660 或いは、メール info@bushido.or.jp)

九州地区本部 (福岡県支部・熊本県支部)

毎月第一土曜日午後2時～ 福岡市南区市民センターでセミナーを開催しています。午後1時から支部会を開催しています。折を見て熊本県支部でもセミナーを開催する予定であります。内容は、武士道憲章で、毎月1章ずつ勉強しています。講義30分、意見交換60分、講評30分、です。いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

【福岡での全国大会】

毎年8月第4土曜日に全国納涼会を開催します。

お問合せ：福岡県にお住まいの方は、永田壮士理事兼九州地区本部長 (090-3325-2588)
熊本県にお住まいの方は、亀井三二理事兼全国地区本部長 (090-5085-6963)
それ以外の方は、立山雄二副理事長兼福岡県支部長 (090-3327-0823)
メール info@bushido.or.jp

(注) 各会場での催し物は、突然変更することがありますので、必ず事前に各担当者へお問い合わせください。

編集後記

今年は熊本地震により悲しい思い出が一つ増えてしまいました。天変地異は地球も生きていることを我々に教えています。安全安心安定は私たちの心の中にしか存在しないことが分かりました。私達は宇宙の法則と共に生きる地球の中の生き物であることを忘れてしまっていたように思えてなりません。武士道はその本来の姿を思い出す為にも必要不可欠な生き方です。武士道11号を作成しながら、他人の役に立つことの喜びこそ、武士道憲章を実践した結果の到達地点だと確信した次第です。

武士道協会事務局

〒163-1320 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー20階 E-mail: info@bushido.or.jp
TEL 03-5325-2660 FAX 03-5325-1618 URL <http://www.bushido.or.jp>

特定非営利活動法人
武士道協会

● 武士道第11号
● 平成28年10月発行